



田んぼわらしの ささやき

田んぼ 10年だより

第6号 2016 8月8日発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称:田んぼ10年)ニュースレター
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

目次

| | | |
|---|-------------------------------|---|
| 1 | 田んぼ 10年プロジェクト地域集会 in 大潟村 報告 | |
| ① | 大潟村と田んぼ 10年プロジェクト 畠山友伴 | 1 |
| ② | コナギを愛でて食べる会 in 大潟村 堤 真由美 | 2 |
| ③ | 「農業を食業に変える」伊豆沼農産のチャレンジ 佐藤耕城 | 3 |
| 2 | Series 活動紹介 株式会社アレフ 荒木洋美 | 3 |
| 3 | 水田部会からのお知らせ / 私たちの生きもの田んぼ宣言 他 | 4 |

田んぼだより第6号は、秋田県大潟村で7月8・9日に開催された「田んぼ10年地域交流会 in 大潟村」の報告を特集しています。ラムネットJ・大潟村・コガムシの会の主催で、潟工房・大潟の自然を愛する会他の協力を得て開催しました。パネラーとしてご参加いただいた伊豆沼農産の活動報告も掲載しています。新登場の「私たちの生きもの田んぼ宣言」もどうぞよろしくお願いします。

* * * * *

1-① 大潟村と田んぼ 10年プロジェクト

秋田県大潟村環境エネルギー室 畠山 友伴



◆はじめに

今年7月8日、9日の2日間に渡り、ラムサール・ネットワーク日本(以下 RNJ)と大潟村、大潟村のコガムシの会共催で、「生物多様性を育む農業国際会議 2016」プレイベントとして田んぼ10年地域交流会 in 大潟村が開催されました。このイベントは愛知ターゲットの達成目標年である2020年に向けて、「田んぼの生物多様性向上の10年プロジェクト」に参加登録し、それぞれの田んぼで生物多様性向上をめざして活動する仲間を増やすために、各地で地域交流会を開催し、情報の共有化を図り、さらなる取り組みを推進するものです。

◆湖底に誕生した大潟村

大潟村は、水田農業を中心に、人々の営みと自然が共生し、豊かな自然環境を形成してきました。1957年(昭和32年)に琵琶湖に次ぐ日本第2位の面積を誇る湖【八郎湖】の干拓によって誕生した大潟村は、国の食料増産という施策に基づいて、全国から入植者が募集され、米単作の大規模機械化農業のモデル農村としてスタートしました。湖底の大地は、重粘土質土壌と呼ばれる極めて排水性が悪い軟弱地盤で、大規模(大型機械化)農業への大きな苦勞がありました。しかし同時に、良質の粘土鉱物に富む、極めて肥沃な土壌でもあったため農業にとっては好都合であり、農薬や肥料の少ない環境に

配慮した農業が行われてきました。

◆自然と農業と人が共生する村づくり～環境創造型農業の恵み～

大潟村では、村の周囲にある八郎湖の水を農業用水及び上水道の水源として利用してきたことから、八郎湖の環境に対する高い関心を背景に、村民の自主的な環境活動として、身近な生活改善や環境負荷の少ない農法など多様な取り組みがなされてきました。農業を中心とした環境への配慮した取組を進めることで、村には多種多様な生態系が形成されました。田んぼには生きものたちがあふれ、渡り鳥たちの飛来地としても注目されています。村では当たり前の光景ですが、チュウヒやハクガンも毎年のように観察することが出来ます。しかし、当たり前が当たり前であり続けるためには、1人1人がその豊かさに気づきその環境を保全していかなければなりません。大潟村では、地元団体が中心となり田んぼの生きもの調査や野鳥観察会など、生物多様性の豊かさに触れる機会を多く設けています。まずは興味を持ってもらうことを第一に、その先に踏み込んで、我々の農業や生活とどのような関わりを持つのかを考えて頂けるよう、今後も各団体と協力しながら生物多様性の取組を広めて行ければと考えています。

◆田んぼ 10年プロジェクト地域交流会 in 大潟村について

大潟村の干拓(誕生)の歴史を知ることの出来る「大潟村干拓博物館」を会場に、交流会初日は、村との交流の深い浦安市の関係者



コガムシの会 発表風景



みんなで集合写真

の方々にも参加して頂き、田んぼが育む生物多様性とその豊かさについて、地域での実践活動を中心に話題提供いただき、その後パネルディスカッションが行われました。様々な立場の方からいろんな意見が出され、田んぼの恵みをどのように活用できるかということについて意見交換がなされました。

2日目は、コガムシの会が主催の「田んぼの生きもの調査」に参加し、実際の田んぼに足を踏み入れ、田んぼの生きものたちとふれあいました。その後「第5回コナギを愛でて食べる会」が開催され水田雑草である



田んぼの生き物観察会

コナギを、地域の方々の協力の下、大福やクッキー、ごま和えなど様々な形に調理してもらい、大変おいしく頂くことが出来ました。

今回の交流会では多くの方々と交流し様々な意見交換し、そして田んぼがもたらす恵みについて感じ、考えることが出来たと思います。田んぼは米の生産場所だけでなく、自然を育む場所でもあります。自然と農業と人が共生し、互いのメリットを活かしながらそれぞれが豊かになる環境を目指していきたいものです。



コナギ料理を食べす



1-② コナギを愛でて食べる会 in 大潟村

交流会2日目、参加者50名程で午前中、田んぼの生きもの調査を行い、その後「第5回コナギを愛でて食べる会」が開催されました。当日、収穫したコナギで色々なメニューをと思いましたが、まだコナギが小さく事前に昨年の冷凍保存したコナギを利用し作れるメニューとなりました。コナギの鮮やかな色を生かしたコナギ団子くるみあんかけ・コナギの葉の可愛い形を模ったコナギクッキー（ハート型）・大潟村産もち米・小豆を使って大潟村の6次産業施設潟工房で作ったコナギ大福、また、田んぼの生き物調査で親子連れの参加者も多かったので大潟の自然を愛する会の方々にも協力頂き大潟村で捕獲したザリガニを提供して頂き味噌汁と唐揚げをメニューに加えました。食しながら総合栄養価が圧倒的に高い、コナギの底力についての説明などが行なわれました。参加者は、コナギが癖のない食材であること、ほうれん草などの多くの野菜より栄養価が高い事に驚きどれも美味しかったと喜んで頂きコナギに関心をもっていただけました。

反省として、現場で収穫し料理して食べられたら、もっと実感が湧いていたのではと残念に思いました。コナギの収穫量が少なかったのでスタッフで、他におひたし・てんぷら・ごパンに混ぜ込んだ焼き立てパンを食べましたが、どれも美味しく食卓に並んでも違和感なく食べられる食材だと改めて思いました。

潟工房 堤 真由美



料理の準備をする堤さん

私ごとですが、数年前に自然米を作っておりましたが、5年も継続した圃場にはコナギが一面繁茂し除草に一月もかかり断念した苦い思い出があります。今回、料理を引き受けるにあたり、今も自然米を作って苦労しておられる方々に朗報となりお役に立てればと思いました。



コナギ入りの団子



コナギ入りクッキーは、いかがですか？



コナギ入り大福



1-③「農業を食業に変える」伊豆沼農産のチャレンジ

佐藤 耕城

宮城の県北に位置する登米市迫町には新田（にった）という地区があります。この地区は古くから農業が盛んなことで知られています。ここ新田にはラムサール条約登録湿地の伊豆沼があり、夏は蓮が大輪の花を咲かせ、冬は白鳥や雁が群れをなして飛び交う光景が広がります。私たち伊豆沼農産は、この豊かな自然の中で「農業を食業に変える」という経営理念のもと創業しました。主な事業は、豚肉・水稲・果樹などの生産、加工を手掛けながら、レストランや農家直売所、ウイナーの手づくり教室、食農体験プログラムなどの事業を展開しています。

水稲は農業・化学肥料節減の「ひとめぼれ」の栽培を行っています。その一方で、田んぼに生きる多様な生き物の力を借りて米作りをする「ふゆみずたんぼ」では、地元小学校と連携し、子供たちに田植えや生きもの調査・収穫などを体験し、学んでもらう食農教育に力を入れています。また、仙台を中心とした都市部の消費者との交流会を開催

し、生きもの調査や農作業体験などを通して、水稲栽培と新田地区の魅力について理解を深めてもらう取り組みを行ってきました。地元の子供たちには自分たちが住む地域の魅力や都市部で果たしている役割を、都市部に住む方々には自分たちの食生活が農村やそこに住む人たちによって支えられていることへの気づきを得る機会を創り出そうと考えています。

生産されたお米はそのまま販売されるのはもちろんですが、ふゆたんぼ米を原料とし、伊豆沼のススキから採種した乳酸菌を添加して製造された「乳酸発酵あま酒」、伊豆沼の水から採種された天然酵母を用いた「伊豆沼どぶろく」などの加工品としても販売されています。また、宮城県から紹介された化粧品メーカーとの連携が成立し、伊豆沼の「ハス花エキス」と伊豆沼農産の「乳酸発酵あま酒」を原料として作られた化粧品「はす肌」シリーズは、伊豆沼環境応援商品として伊豆沼の自然保護活動支援に役立てられています。



伊豆沼農産ふゆみずたんぼ田植え



伊豆沼農産生きもの調査



各地の活動報告

登録会員の活動を
ご紹介します。

北海道

ふゆみずたんぼまつり (株)アレフふゆみずたんぼプロジェクト

荒木洋美

●実施日：2016年5月28日・29日 ●場所：えこりん村 銀河庭園（北海道恵庭市） ●参加者：209名

えこりん村「ふゆみずたんぼ」のお米づくりは11年目を迎えました。4月から約5週間かけて育てた「ななつぼし」「ゆきひかり」「赤毛」「きたのむらさき」の苗約14,000株を、2日で209名の参加者が裸足になって1つずつ手で植えていきました。普段はびっくりドンキーのお店で働く従業員など社員約12名もスタッフと一緒に田植えを盛り上げながら、10年間で31種類のトンボが確認された生きもの豊かな田んぼを体感しました。

生物多様性アクション大賞のGreenTV賞を受賞したオリジナルアニメーション「ふゆみずタンゴ」をお客様と一緒に踊る「ふゆみずタンゴを踊ろう！」を実施し、えこりん村への来場者に田植え体験以外の方法でも「ふゆみずたんぼ」を知っていただくきっかけ作りを行いました。

周囲にはシオカラトンボ、ヨツボシトンボなどが飛び交い始め、カエルの鳴き声の響く中、今年も生きものにぎわいを感じさせました。



田植え後の記念撮影



水田部会からのお知らせ

「私たちの生きもの田んぼ宣言」 もっと多くの方に「宣言」していただくために！ NPO田んぼ 船橋玲二

日本人にとって「田んぼ」は、主食のコメを作る場であることから、私達の生活とは切っても切れない存在です。生産に携わる農家はもちろん、流通・加工や消費まで含めると、コメとの関わりが全く無い人を探す方が困難でしょう。田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクトは、愛知目標を達成するための行動を拡大していくための取組として、国際的にも評価が広がっています。一方、国内では、登録作業の繁雑さや広報力の不足もあって、登録者の増加が伸びていません。

登録しやすくするための工夫として、「私たちの生きもの田んぼ宣言！」(図)を作成し、田んぼ 10年プロジェクト関連イベントで試行しています。田んぼ 10年プロジェクトは、具体的にわかりやすくなったとは言え、その項目は多岐にわたっていて、初めて手に取った人は圧倒されてしまいがちです。そこで、「私たちの生きもの田んぼ宣言！」は、地域の実情に合わせながら、まずは一つの項目からでも「宣言」していただけるようにしています。農家さん向けには、「田んぼの生きもの調査を通じて生きものへの理解を深める」や「水田魚道の設置」、消費者グループ向けには、「生きものあふれる田んぼで作ったお米を選んで買う」や、「田んぼへの理解を深め、家族や友人にも伝えます」などの選択肢（ほんの一例です）を準備しています。普段の行動がやがて地域や国を変えていく、愛知目標の達成に近づいていく、そんな活動の輪をどんどん広げていきましょう。

私たちの生きもの田んぼ宣言！

秋田県・大湯村の生きもの豊かな田んぼは、食べ物、水、安らぎ、文化など私たちにたくさんの恵みを与えてくれます。私たちの誇りであるこの田んぼとそれを支える小さな生きものたちの力を、子どもや孫たちの未来に大切に伝えていくため、ここに生きもの田んぼ宣言！をします。

ひとりひとりの活動は小さくても、みんなが取り組むと、地域を変え、国を変え、世界を変える大きな力になります。取り組めそうな内容を下から選んでチェックをいれましょう。宣言の内容は「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」や「にじゅうまるプロジェクト」のホームページで公開されます。

- ピオトープを作ります
- 多くの水鳥が安心できる田んぼを作ります
- ごはんもおかずも買む田んぼを作ります
- 氷田魚道を作ります
- U字溝に蓋をして小動物が流されないようにします
- 畦での除草剤を減らします
- 農薬の量を減らします
- 農薬の毒性を確認し、毒性の弱い種類に変えます
- 無農薬農法・有機農法を並べます
- 濁り水を水田の外に流さないようにします
- 生きもの大切さを家族や友人に説明します
- 田んぼの生きもの調査を実施して生きものへの理解を深めます
- 生きもの大切さを伝える体験イベントを行います
- 田んぼ10年プロジェクトの参加者を増やします

ふりがな
お名前

〒

住所:

Tel Fax

E-mail @

取り組む場所 自宅周辺・地区名

2017 春までの 〈田んぼ 10年プロジェクトの主な活動予定〉

- 8月26～28日
第4回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA) 2016 in おやま…チラシ同封
- 秋～年末 (日程未定)
第6回田んぼ 10年地域集会在 いすみ市
- 12月4日～17日
CBD COP13 メキシコ カンクン 参加
- 2017年2月18日
第2回田んぼ 10年全国集会在 川越市

■田んぼ 10年プロジェクト 新規参加者のご紹介

| No. | 都道府県 | | 参加者名 |
|-----|------|---|-----------------|
| 97 | 兵庫県 | 団 | 生活協同組合コープ自然派兵庫 |
| 98 | 岡山県 | 団 | 岡山県木村式自然栽培実行委員会 |
| 99 | 神奈川県 | 団 | 三翠会 |
| 100 | 西日本 | 団 | 公益財団法人日本野鳥の会 |
| 101 | 岩手県 | 団 | 農事組合法人 門崎ファーム |
| 102 | 宮城県 | 団 | 栗原市有機の会 |

2016年7月末

PDFを希望されている方も今回は送付しています。

アンケート用紙他、チラシ等の送付がありましたので、今回は、PDFでの配信を希望されている団体・個人にも、紙媒体で送付させていただきました。ご了承ください。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566



田んぼ 10年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の10年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成28年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

